

第3回

市民ワークショップの結果をお知らせします

9月10日（日）篠ノ井公民館で、3回目の「篠ノ井地区の公共施設について考える」市民ワークショップを開催しました。

今回は「南部図書館と篠ノ井駅周辺の公共施設再配置の将来像について考える」をテーマに、それぞれグループ独自の再配置（案）を考えていただきました。

まず、アドバイザーの堤先生から「篠ノ井駅東西自由通路を活用して図書館が整備できるのでは？」というアイデアを含む、再配置の考え方の提案がありました。

その後「①集約化・複合化を考える、②公共施設以外の活用を考える、③将来まで残す施設を考える」の三つの視点を踏まえてグループ討議を行って、次回に向けた中間発表をしていただきました。

参加いただいた皆さま、熱心な議論をいただき、ありがとうございました。

お父さん・お母さん世代のCグループ



これからのリーダー・若手のDグループ

人生の先輩の皆さんBグループ



堤先生から「朝を楽しむ図書館」の提案



日程により3回目と
4回目の結果を一緒
に回覧しています

次回9月23日が最終回。
各グループの意見発表会です。
篠ノ井駅周辺の活性化や将来
のまちづくりを見据えて、新鮮
なアイデアが発表されること
を期待しています。



【お問い合わせ先】
公共施設マネジメント推進課
電話：224-7592
篠ノ井支所 電話：292-2590

各グループから発表された主な意見をご紹介します

【Aグループ】 人生の大先輩の皆さん

◆検討の方向性＝南部図書館と学校を活用した再配置

◇子ども広場を図書館と複合化。図書館に子どもや子育て世代が集まる工夫を。子どもが本を読む力をつける。住民参加の図書館づくりを。こども広場の分室も必要では。

◇青少年ホームと女性の家は一つに統合。人権同和教育集会所は学校の空き教室に統合。

【Bグループ】 人生の先輩の皆さん

◆検討の方向性＝南部図書館を中心とした再配置

◇町づくりの核となる、図書館の概念にとらわれない図書館にする。東西自由通路の活用も。

◇青少年ホーム、働く女性の家、子ども広場、子どもの園保育園は図書館に機能集約する。

◇駐車場、ぐるりん号といった交通対策が必要。

【Cグループ】 お父さん・お母さん世代の皆さん

◆検討の方向性＝図書館、保健センター、子ども広場の再配置

◇保健センター機能を篠ノ井駅の西口に。青少年ホームと女性の家は統合し公民館分館に。

◇子ども広場は篠ノ井中央公園等につくる。あるいは、現在地に加えてサテライトを作る。

◇図書館は今よりも充実させ大きくする。図書館本来のサービスを提供する。

【Dグループ】 これからのリーダー・若手の皆さん

◆検討の方向性＝まちづくりの拠点となる図書館を中心とした再配置

◇図書館を中心として駅前の活性化を図る。場所は要検討。子ども広場は図書館に機能を統合。

◇新しい総合市民センター（公民館）は利用に制約がある。図書館で不足する機能を補えるようにしたい。県の埋蔵文化財センターとも連携できれば。

◇学校の防災拠点機能を充実させ、通常時は会議室等に活用。篠ノ井体育館も避難場所に活用。

【Eグループ】 大学生～中学生の皆さん

◆検討の方向性＝学校施設を活用した再配置

◇図書館機能は小中学校に分散させる。学校図書館のネットワーク化や移動図書館の充実を図れば、図書館というハコモノは無くても良い。本のある場所に学生・子どもを集めるのではなく、学校に本を集める発想。児童センターは小学校に統合。南部図書館跡に子ども広場と保育園を。

↓堤先生（前橋工科大学）から提案された「朝を楽しむ図書館」のイメージイラストです↓



この案のように
従来の施設に縛られない使い方を
提案してください！



終了後のアンケートでは「沢山の夢のある意見が出て楽しかった。分りやすく議論ができた」といった声と「ワークショップは4回では少ない。もっと落ち着いて議論すべき。時間が足りなかった。タイムスケジュールをしっかり管理して」といった声をいただきました。

また「ワークショップの話し合いを市政に反映して欲しい。未来の篠ノ井のために若い人の意見を広く取り入れるべき」など、これからの期待する意見をいただきました。